

ジェイアールバス東北本部

第34号

2021年4月14日

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-4-3 JR東労組仙台地方本部内

NTT:022-297-0155 JR:031-3981~3983

発責：佐藤 秀一

編集：情宣部

申8号「2021年度賃金引上げ等に関する申し入れ」 職場の怒りや切実な声を粘り強く訴え、本日妥結する

ジェイアールバス東北本部は、職場現実を踏まえ「雇用確保」「定昇確保」「ベア要求」を堂々と掲げ、厳しい情勢の中で、21春闘のたたかいを全組合員と共につくり出し、組合員と家族、JR東労組の多くの仲間の激励に支えながらたたかい抜いてきました。

交渉において、職場の声を踏まえながらコロナ禍の中、職場や家庭での奮闘や組合員・社員の生活実態、4年連続ベアゼロとなることで生活苦による将来への不安から人材流出にも繋がることを強く訴えてきました。また、JR東日本会社での定期昇給にも踏み込むという厳しい結果を受け、グループ会社ではあるものの賃金形態や勤続年数など大きく違うことから、バス東北会社の社員と将来を第一に考え判断することを強く求めてきました。

しかし、3月29日の第3回交渉において示された内容は、「ベアゼロ」「定期昇給は所定昇給額の4分の2での実施」という非常に厳しい回答が示されました。

要求とは大きく乖離していることから席上妥結せずに持ち帰り、各分会で議論を積み重ね、4月12日の分会代表者会議において、全組合員の声を基に議論を行いました。

会議では、今春闘の回答に危機感を持つと同時に、それを踏まえた上で今後の会社施策や山積する業務問題の解決に向き合うといった、次に繋げるための議論を行い、職場からの運動をつくり出していくことを参加者全員で確認しました。その後、バス本部内で意見をまとめた結果、未来へ向けた議論を展開することで意思統一し、本日4月14日に妥結しました。

組合員の期待に届えられなかったことは、21春闘は敗北と言わざるを得ませんが、全組合員でたたかいをつくり出してきたことは大きな成果であります。厳しい組織現状ではありますが、今回の悔しさを教訓とし、更なる組織強化・拡大の実現と、将来を見据えた議論を展開していきましょう。

21春闘を最後まで支えていただいた、全組合員と家族

東労組の仲間の皆さんに感謝いたします!!



**21春闘で培った団結力を更に強化し
組織強化・拡大へ繋げよう!!**